

谷川連峰（たにがわれんぼう）には様々な植物や動物が生息しており、互いに捕食・被食の関係にあり、食物連鎖と呼ばれる連続的な捕食サイクルを生み出している。イヌワシはこの食物連鎖の頂点に立っている。イヌワシはニホンノウサギ、ヤマドリ、ヘビなど様々な動物を獲物としているが、天敵はいない。夏は標高の高い草地や低木地で、冬場は落葉樹の森で獲物を捕らえる。イヌワシや、その獲物となる動物の縄張りは広範囲にわたるため、イヌワシの個体数はその地域の生態系の全体的な健全度ををはかる指標として使うことができる。このような役割を果たす種は「アンブレラ種」と呼ばれる。